

都道府県・ 指定都市番号	22	都道府県・ 指定都市名	静岡県	研究課題番号・校種名	3(5)幼稚園・保育所・小学校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	がっこうほうじんすみよしがくえん ようちえん 学校法人住吉学園 ひばり 幼稚園 (209 人) がっこうほうじんかわしりがくえん ようちえん 学校法人川尻学園 ちどり 幼稚園 (148 人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立 さくら 保育園 (93 人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立 すみれ 保育園 (146 人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立 さゆり 保育園 (119 人) よしだちやうりつ ほいくえん 吉田町立 わかば 保育園 (149 人) よしだちやうりつ はつたつしえん じぎやうしよ 吉田町立 こども 発達支援事業所 (20 人) よしだちやうりつすみよししょうがっこう 吉田町立 住吉 小学校 (525 人) よしだちやうりつちゅうおうしょうがっこう 吉田町立 中央 小学校 (729 人) よしだちやうりつじきやうしょうがっこう 吉田町立 自彊 小学校 (433 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・核家族化や共働き、ひとり親などの家庭 の増加に伴う家庭や地域の教育力の低下 ・小学校入学時における学校生活への不適 応等、「小1プロブレム」の常態化 ・子供の発達と学びの連続性を踏まえ た教育実践を展開するための幼児教育 カリキュラムの作成・実践 ・私立幼稚園、公立保育所等と公立小学校 との連携のスタート	
所在地 (電話番号)	【幼稚園・小学校】 吉田町教育委員会学校教育課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2151) 【保育所等】 吉田町こども未来課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2153)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3046.htm">http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3046.htm</a>				
研究のキーワード	○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ○発達過程における育てたい子供の姿 ○子供の発達と学びの連続性 ○吉田町幼児教育カリキュラム ○スタートカリキュラム				
研究結果のポイント	○「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携の強化 幼稚園・保育所等・小学校の連携のための組織をつくり、「吉田町幼児教育カリキュラム」を 作成及び実践した結果、教職員の異校種及び他園校への相互理解が進み、協働した取組が進んだ。 ○「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動の充実 「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、指導者の意識改 革とともに活動や授業の改善が進んだ。 ○「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり 「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づき、「子供の幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的 に学びに向かう子供を育成する」をテーマに、スタートカリキュラムの検討が進んだ。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な  
 接続を目指して～幼稚園・保育所等・小学校が連携して作成した吉田町幼児教育カリキュラムに  
 基づいた教育の実践と検証～

## (2) 研究主題設定の理由

近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話が聞けないなどといった、いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また、幼稚園・保育所等・小学校（以下、「幼保小」とする）の連携は十分ではなく、教職員間の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流に止まっている。

そこで、幼保小の教職員が、育てたい子供の姿を共有し、その実現に向けて、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え、昨年、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

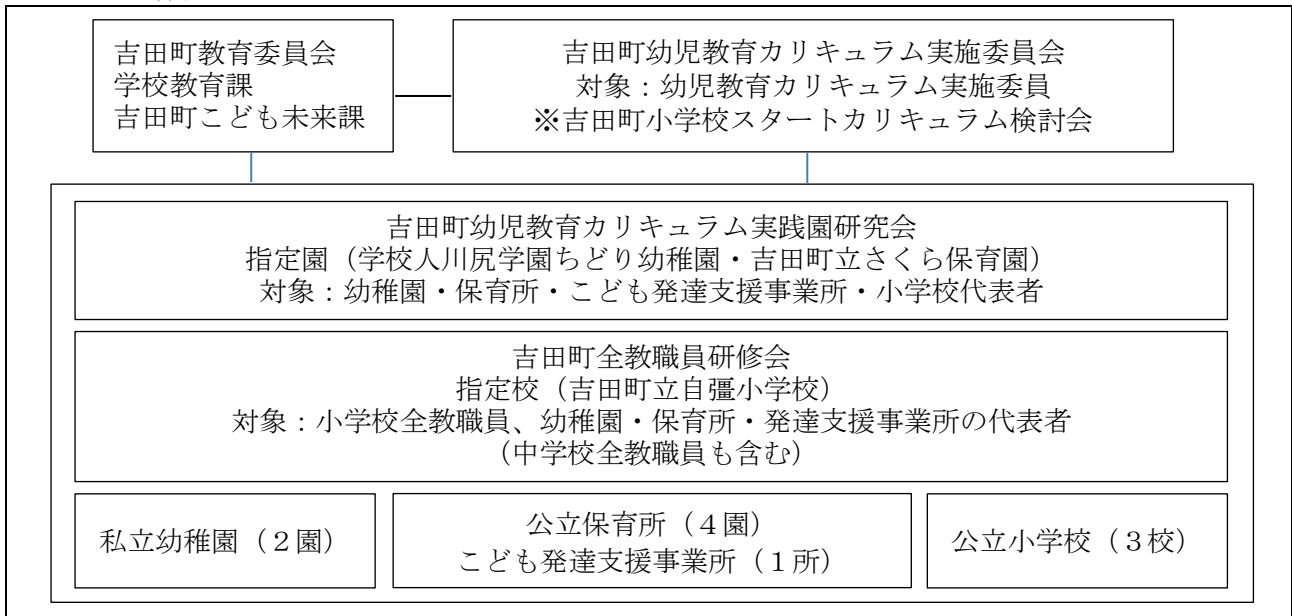
今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

### 【吉田町幼児教育カリキュラム】

吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、私立幼稚園、公立保育園、公立小学校の関係者で構成する「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」において作成した、吉田町内全ての幼児教育を行う施設、小学校に共通するカリキュラムである。作成の過程では、幼稚園教諭、保育士、小学校教員等（以下、「指導者」とする）の代表者が3歳時から1年生までの実践を持ち寄り、各校種保護者代表者とともに幼稚園教育要領等に示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、実際の子供の姿を抽出、検討するとともに、発達に即して整理した。その結果、3歳時から5歳児までの発達の過程を学年等の区分に抛らずに3ステップに分け、具体的な幼児の姿を示した「発達過程における育てたい子供の姿」（以下、「育てたい子供の姿」とする）及び指導の留意点（試案）としてまとめ、指導者が共有するとともに、子供一人一人の学びを的確に把握することを目指している。

## (3) 研究体制

### ア 全体図



### イ 校種間連携協議会の構成員・人数

吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会（14人）  
学識経験者（1人） 千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏（委員長1人）  
私立幼稚園関係者（3人） 園長代表（1人）・教諭（2人）  
公立保育所関係者（6人） 園長代表（1人）・保育士（5人）  
公立小学校関係者（4人） 校長代表（副委員長1人）・教諭（3人）

## (4) 1年目の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知</li> <li>・「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正</li> <li>・「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」、「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討</li> <li>・「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討</li> <li>・「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」における「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり</li> </ul>
--------	---

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア 「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携

- (ア) 指導者が、「吉田町幼児教育講演会」へ積極的に参加することで、幼児教育に関する国の動向や町の方向性についての理解と共有を図る。
- (イ) 指導者の代表者が、「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」に参加し、「吉田町幼児教育カリキュラム」の活用状況を確認するとともに、「指導の留意点（試案）」について、それぞれの施設の実践を基に協議し、修正を図る。
- (ウ) 指導者が、「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」や「吉田町全教職員研修会」に参加し、公開保育や公開授業の参観時に見られる子供の姿を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえた指導の在り方について検討する。
- (エ) 各施設における定期的な「吉田町幼保・小連絡会」の開催と計画的な子供の交流により、円滑な幼保小の接続を図る。

#### イ 「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動

- (ア) 幼保小において、教育等の実践（以下、「活動」とする）を「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」と関連付け、整理することで指導計画等の改善を図る。
- (イ) 「育てたい子供の姿」を意識し、活動や授業における子供の様子やその変容を捉えるとともに、個に応じた適切な指導について追求する。

#### ウ 「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

小学校の教員が主体となって「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」を開催し、「吉田町幼児教育カリキュラム」を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムを検討する。

### (2) 具体的な研究活動

#### ア 「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携

- (ア) 吉田町幼児教育講演会においては、吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会委員長であった千葉大学教育学部教授松寄洋子氏から、改訂幼稚園教育要領並びに改定保育所保育指針の概要の説明と「吉田町幼児教育カリキュラム」の具体的な活用方法の説明があり、参加した指導者の理解が深まった。
- (イ) 各施設では、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育実践が行われ、職員研修では、各活動のねらいに迫るための指導の留意点について検討を重ねている。「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」では、各施設における「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育実践の進捗状況を確認し合うとともに、この「指導の留意点（試案）」についての意見を持ち寄り、修正を図った。また、「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」の指導案の検討も事前に行うことができ、研究会における公開保育の参観や事後研修会での協議を深めることにつながった。
- (ウ) 「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」や「吉田町全教職員研修会」においては、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育活動の実践及び参観、事後の協議により、公開保育や公開授業の参観時に見られる子供の姿を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえた指導の在り方について、積極的な意見交換が行われた。
- (エ) 例年、年2回、幼稚園と保育園等の教職員が小学校に出向き、当該校の校長からの学校経営方針の説明を受け、授業参観、子供に関する情報交換、学級編成の検討などは行っている。さらに、小学校によっては、幼児が小学校に招待されたり、活動に加わったりする

などの交流も計画的に行われるようになってきている。このような取組とともに、小学校では、教職員の幼児教育の理解とそれに基づいた教育指導が進んでいる。

#### イ 「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動

(ア) 幼保小において、これまでの教育実践を振り返り、活動を「育てたい子供の姿」と関連付け、整理することで、活動における幼児の学びを具体的に確認するとともに、指導者の意識が薄かったために幼児の体験が十分でなかった点も明らかになった。そこで、指定園においては、幼児が必要な体験ができるように、環境の構成や活動の工夫を行った。このように、活動の一場面と「育てたい子供の姿」の関連付けにより、指導者と参観者が自分の視野を広げることができ、次の実践に生かすことができている。

(イ) 指導者は、「育てたい子供の姿」を基に、日々実践している活動や授業において、子供の様子やその変容を捉えるとともに、ねらいの設定や環境構成を含めた手立てが適切であったかを評価し、改善に努めている。各施設における研究保育では、指導者が、参観後の事後研修に、参観時に見られた子供の姿と「育てたい子どもの姿」とを関連付け、協議を深めたり、「指導の留意点（試案）」を基に、実際の指導から必要と思われる内容を洗い出し、修正及び共有を図ったりしている。

#### ウ 「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

小学校関係者による「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」において、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいたスタートカリキュラムの検討を行っている。「子どもの幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子どもを育成する」（仮）をテーマに掲げ、「育てたい子どもの姿」を設定するとともに、4月は第1週から各週、5月から7月までは各月ごとにねらいを定め、生活指導においては「身の回りの人との関わり」として、学習指導においては「生活科を中心とした学習」、「生活科以外の教科を中心とした学習」、「子供の主体的な姿」として、幼児教育の学びを継承する内容を具体的に検討している。今後、この原案は、吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会にて協議される予定であり、子供の発達と学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムの作成が組織的に進んでいる。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

#### ○「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携の強化

幼保小の連携のための組織をつくり、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成及び実践した結果、指導者に異校種及び他園校への相互理解が進み、協働した取組が進んだ。

#### ○「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動の充実

「育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。

#### ○「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

「子どもの幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子どもを育成する」（仮）をテーマに掲げ、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいたスタートカリキュラムを検討が進んだ。

#### ●指導者の取組を反映させた吉田町幼児教育カリキュラムの修正や更新

「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた具体的な実践から、各活動のねらいに迫るための効果的な手立てや指導の留意点などをまとめ、共有する必要がある。

#### ●「育てたい子供の姿」を意識した子供一人一人の成長の見取りの追求

各施設において、子供の姿の変容を基に、活動や授業の改善の成果と課題を明らかにし、次年度の教育計画等に反映させる必要がある。

●平成29年度に検討・作成した「吉田町スタートカリキュラム」の実践を行い、その成果と課題を明確にし、修正を図る必要がある。

#### ●指導者の意識改革と資質向上を目指した研修体制の充実

本研究の取組により、研究実践への指導者の意識の高まりがあることから、継続的・計画的な研究会や実施委員会の開催とともに参加者を拡張する必要がある。また、幼児教育の充実や幼保小の連携を図っている先進地区への視察等を拡張することで、吉田町内の指導者の資質向上を図ってい

きたい。

#### 4 今後の取組

- (1) 「指導の留意点」の取りまとめ及び吉田町内幼児教育関係者向けの指導書の作成
- (2) 「吉田町スタートカリキュラム」に基づいた各小学校の実践及び分析
- (3) 実施委員会を活用した「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正
- (4) 活動や授業の改善の成果と課題を反映させた指導計画等の分析
- (5) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実